

1. 平成 25 年の水害被害額の概要

【被害の特徴等】

- ◆水害被害額は、全国で約 4 千 1 百億円（過去 10 カ年で 4 番目）
- ◆被災建物棟数は、全国で約 4 万 4 千棟（過去 10 カ年で 4 番目）
- ◆主要な水害の被害状況

○平成 25 年台風 18 号（水害被害額：約 1 千 6 百億円）

- ・台風 18 号の接近・通過に伴い、四国から北海道の広い範囲で大雨となり、特に激しい大雨となった京都府、滋賀県、福井県では運用開始以来初となる特別警報が発令。
- ・京都府の由良川では、観測史上最高の水位を記録し、流域全体にわたり大規模な浸水被害が発生。また、桂川では、嵐山地区で家屋や渡月橋等の周辺の観光施設等に浸水被害が発生した他、鴨川合流点付近では、水位が堤防天端まで上昇し、右岸側で越水が発生。



渡月橋の欄干まで水位が上昇した桂川
（京都市嵐山地区）

○平成 25 年台風 26 号（水害被害額：約 4 百億円）

- ・東京都大島町では、台風 26 号の豪雨により、土石流が流域界を超えて流下し、土砂災害危険区域の範囲外でも被害が生じた他、大量に発生した流木により被害が拡大し、死者 36 名、行方不明者 3 名にのぼるなど激甚な被害が発生^{※1}。



流木による家屋被害（東京都大島町）

※1 死者数等は、「平成 25 年台風第 26 号による被害状況等について」（消防庁作成）の数値を使用。

(1) 水害被害額

約 4 千 1 百億円

〔内 訳〕	
・ 一般資産等被害額	200,562 百万円（構成比 49.4 %）
・ 公共土木施設被害額	190,745 百万円（構成比 47.0 %）
・ 公益事業等被害額	14,868 百万円（構成比 3.7 %）
計	406,176 百万円

注）被害額には、人的損失、交通機関のストップなどによる波及被害、被災した企業の部品・製品供給機能、本社機能等が損なわれることによる他地域の企業への影響等に係るものは含まれていない。

(2) 水害被害の概要

①被災建物棟数 **約 4 万 4 千棟**

〔内訳〕		○全壊・流失	341 棟	○半 壊	1,168 棟
		○床上浸水	11,892 棟	○床下浸水	30,801 棟
				計	44,202 棟
※うち地下部分が浸水した建物棟数は 195 棟					

②浸水区域面積 **約 3 万 ha**

〔内訳〕		○宅地・その他	9,671 ha	○農 地	20,005 ha
				計	29,676 ha
※うち地下の浸水区域面積は 4 ha					

国土交通省では、水害（洪水、内水、高潮、津波、土石流、地すべり等）による被害額（建物被害額等の直接的な物的被害額等）等を暦年単位で「水害統計」として取りまとめています。

(3) 全国の被害

表－１ 平成25年水害被害一覧

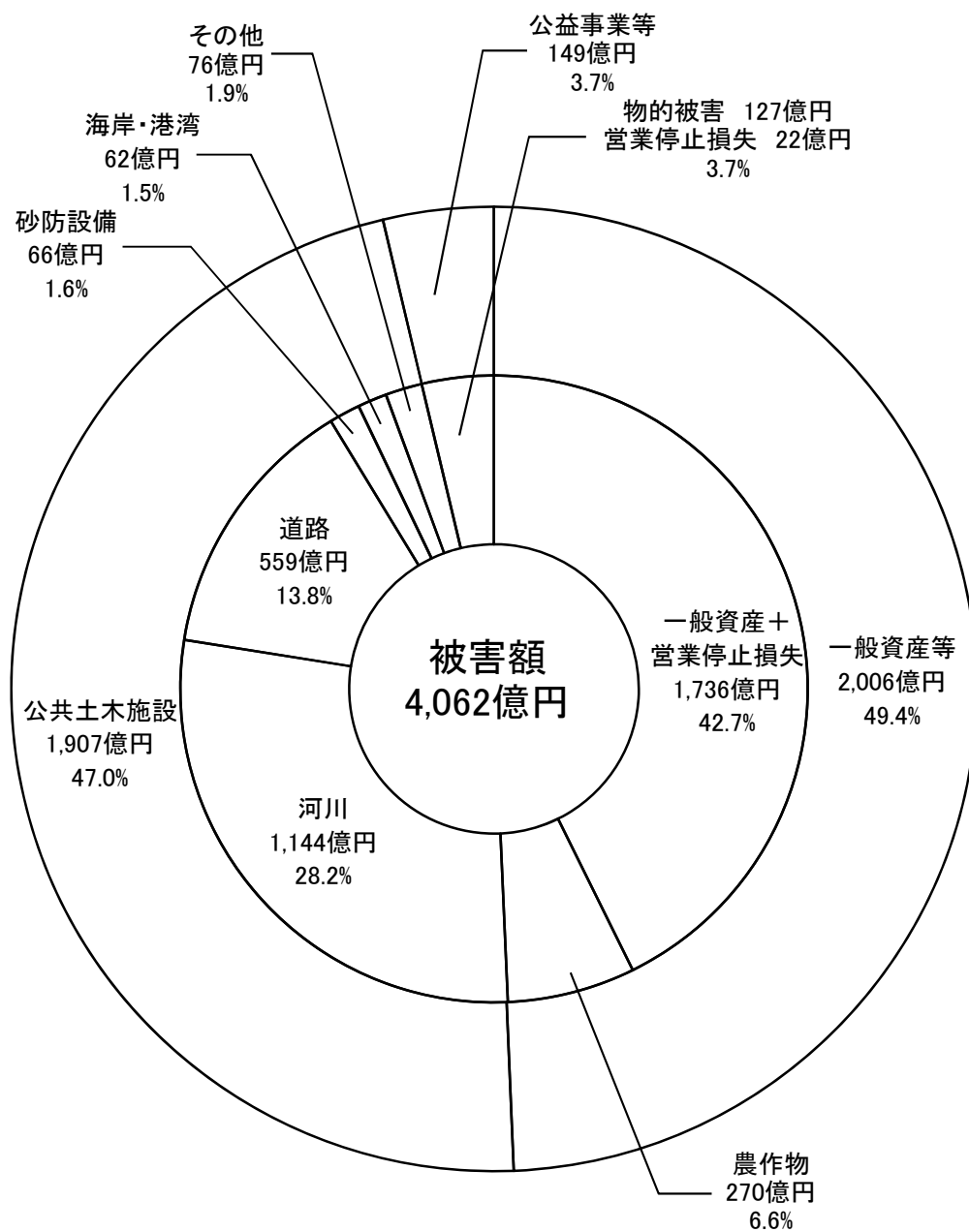
事項			単位	被害	事項			単位	被害			
死傷者数	死 者		人	65	公共土木施設被害	水系・沿岸数			884			
	行方不明		人	7		河川・海岸数			5,511			
	負 傷 者		人	100		市区町村数			978			
	計		人	172		被害額	河川		百万円	114,413		
一般資産等被害		水系・沿岸数					342	海岸・港湾		百万円	6,209	
		河川・海岸数					1,237	砂防設備		百万円	6,643	
		市区町村数					674	地すべり防止施設		百万円	37	
		水面積区域	宅地・その他				h a	9,675	急傾斜地崩壊防止施設		百万円	240
			農地				h a	20,005	道路		百万円	55,871
			計				h a	29,680	橋梁		百万円	4,181
			地下				h a	4	下水道		百万円	859
		家屋被害	地上	全壊・流失			棟	341	公園・都市施設		百万円	2,291
				半壊			棟	1,168	計		百万円	190,745
				床上浸水		棟	11,892	水系・沿岸数			123	
床下浸水				棟	30,801	河川・海岸数					250	
地上計				棟	44,202					市区町村数		
地下浸水		棟	195	被害額	運輸	物的被害額	百万円	7,437				
被災世帯数等	地上	全壊・流失				世帯	234	営業停止損失	百万円	1,438		
		床上浸水				世帯	9,672	計	百万円	8,875		
		床下浸水			世帯	31,605	通信	物的被害額	百万円	492		
		地上計			世帯	41,511		営業停止損失	百万円	27		
	地下浸水		世帯		134	計		百万円	519			
	農漁家数		戸		294	電力	物的被害額	百万円	3,214			
	事業所数	地上浸水			事業所		2,556	営業停止損失	百万円	705		
		地下浸水			事業所		42	計	百万円	3,919		
	事業所従業者数		人		16,959	被害額	ガス	物的被害額	百万円	8		
被害額	一般資産	家屋			百万円			84,360	営業停止損失	百万円	0	
		家庭用品			百万円			50,157	計	百万円	8	
		農漁家資産			百万円		197	水道	物的被害額	百万円	1,502	
		事業所資産			百万円		24,516		営業停止損失	百万円	46	
		家庭応急対策費			百万円		6,958		計	百万円	1,548	
		事業所応急対策費			百万円		3,073	計	物的被害額	百万円	12,653	
		計			百万円		169,260		営業停止損失	百万円	2,216	
		営業停止損失			百万円		4,341		計	百万円	14,868	
	農作物		百万円	26,961								
	計		百万円	200,562								
被害額合計								百万円	406,176			

注１）死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省において水害・土砂災害を原因としない

死傷者数（例：強風による転倒等）を除いて再集計したもの。

注２）水系・沿岸数、河川・海岸数、市区町村数については延べ数である。

注３）被害額については表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計数値と計は一致しない場合がある。



図－1 平成25年水害被害額構成比

(4) 平成 25 年台風 18 号による水害被害額等

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
155,248 百万円 ※9 月 14 日～17 日に生じた台風 18 号による被害額。 〔 内 訳 〕 一般資産等被害額 72,119 百万円 公共土木施設被害 76,548 百万円 公益事業等被害額 6,581 百万円	○死傷者数 150 名（死者 6 名 行方不明者 1 名 負傷者 143 名） ○被災建物棟数 12,094 棟 ○浸水面積 14,605 ha 【 気象概況 】 ・ 台風の接近・通過に伴い、日本海から北日本にのびる前線の影響や、台風周辺から流れ込む湿った空気の影響、台風に伴う雨雲の影響で、四国地方から北海道にかけての広い範囲で大雨となった。 ・ 9月15日から16日までの総雨量は、近畿地方や東海地方を中心に400ミリを超えた。特に近畿地方では、15日から16日にかけての雨量が9月の月降水量平均値の2倍を超える記録的な大雨となったところがあったほか、最大1時間降水量で13地点、最大3時間降水量で25地点、最大24時間降水量で35地点、最大48時間降水量で25地点が観測史上1位を更新した。 ・ 記録的な大雨となった滋賀県、京都府及び福井県では、運用開始後初めて大雨特別警報が発表され、最大級の警戒が呼びかけられた。
【 被害状況 】 ・ 国管理河川のうち、4水系5河川で計画高水位を超過した。特に由良川水系由良川では、下流域で甚大な被害が発生した平成16年台風23号による出水を上回る観測史上最高の水位を記録（福知山観測所）し、流域全体にわたって大規模な浸水被害が発生した。また、計画高水位を約80cm上回る水位を記録（天龍寺観測所）した淀川水系桂川の流域では、嵐山地区（京都市）で家屋や渡月橋等の周辺の観光施設等に浸水被害が発生した他、下流の鴨川合流点付近（京都市）では、水位が堤防天端まで上昇し、右岸側で越水が生じた。 ・ 水害被害額（155,248百万円）のうち、農作物被害額が22,928百万円となっており、過去10力年に発生した各水害の同被害額と比較して最大となった。 ・ 都道府県別の台風18号による水害被害額の上位3県は、京都府（62,771百万円）、滋賀県（15,047百万円）、岩手県（10,002百万円）となった。また、京都府の台風18号による水害被害額は、過去10力年に京都府で発生した水害のうち、平成16年台風23号による水害被害額（58,978百万円）を上回り、最大となった。 ・ 鉄道については、安祥寺川（京都府管理）の氾濫水が京阪電鉄京津線の線路を伝い地下鉄御陵駅のトンネルに流入し、京都市営地下鉄東西線が4日間運休となった。また、JR 飯田線が土砂流入等により、天竜峡駅～平岡駅区間（長野県）で25日間運休となった。	



由良川の浸水状況
（京都府福知山市・綾部市）



京都市営地下鉄東西線の浸水状況
（京都市交通局提供）

注）1. 死傷者数は、「台風第 18 号による被害状況等について」（消防庁作成）の数値を使用。
2. 死傷者数は、台風による風害等を含む数値である。

(5) 平成 25 年台風 26 号による水害被害額等

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
43,418 百万円 ※10月15日～17日に生じた台風 26 号による被害額。 〔 内 訳 〕 一般資産等被害額 33,051 百万円 公土木施設被害 9,047 百万円 公益事業等被害額 1,320 百万円	○死傷者数 173 名（死者 40 名 行方不明者 3 名 負傷者 130 名） ○被災建物棟数 7,300 棟 ○浸水面積 979 ha 【 気 象 概 況 】 ・台風26号は、10月10日21時にマリアナ諸島の近海で発生し、13日21時には沖の鳥島近海で非常に強い勢力となった。その後、台風は日本の南の海上を北北西に進み、15日午前には南大東島の東の海上で次第に進路を北東に変え、16日未明から朝にかけて強い勢力を維持したまま伊豆諸島や関東地方に接近した。 ・台風の接近に伴い、10月16日未明から明け方にかけて伊豆諸島北部を中心に非常に激しい雨となった。特に、大島（元町）では、1時間に122.5ミリの猛烈な雨が降り、24時間降水量では824.0ミリと10月の月降水量平年値（329.0ミリ）の約2.5倍の雨を観測し、いずれも観測史上1位の値を更新した。
【 被害状況 】 ・東京都大島町では、台風26号の豪雨により、土石流が流域界を超えて流下し、土砂災害危険区域の範囲外でも被害が生じた他、大量に発生した流木により被害が拡大し、死者36名、行方不明者3名にのぼるなど激甚な被害が発生した。 また、東京都の台風26号による水害被害額（13,270百万円）は、過去10カ年に東京都で発生した水害のうち、平成17年に発生した豪雨及び台風14号による水害被害額（40,209百万円）に次いで、過去2番目に大きいものとなった。 なお、水害統計において貨幣換算化して計上していないが、一般社団法人大島観光協会によると、毎年1月～3月に大島町で開催される「大島椿まつり」への来場者数が半減するなど、観光産業への影響も見られた。 ・都道府県別の台風26号による水害被害額の上位3県は、千葉県（20,981百万円）、東京都（13,270百万円）、埼玉県（4,613百万円）であり、台風26号による水害被害額のうち、約9割が上記3県のものとなった。 千葉県内の河川では、8水系15河川で計画高水位を超える出水が生じた他、一宮川水系豊田川の河川が氾濫し茂原市内では広範囲において浸水被害が発生した。 ・鉄道については、小湊鉄道線が盛土損壊により、養老溪谷駅～上総中野駅間（千葉県）で約5カ月間運休となった。	土砂災害による被災状況（東京都大島町） 市役所前の浸水状況（千葉県茂原市）

注）1. 死傷者数は、「平成 25 年台風第 26 号による被害状況等について」（消防庁作成）の数値を使用。
2. 死傷者数は、台風による風害等を含む数値である。